

特集にあたって

川崎医科大学総合内科学1 黒川勝己

今回の特集は、「日常臨床でよく遭遇する症候からみる脊椎脊髄疾患の鑑別手順」をテーマとしました。脊椎脊髄疾患の鑑別は日常診療においてきわめて重要であり、これまでも疾患別あるいは診察所見別の鑑別をテーマとした特集が数多く企画されてきました。それらはもちろん有用ですが、実臨床では、患者が訴える症候を起点として診断推論を進めることが求められます。臨床医は「頸椎症性筋萎縮症（CSA）か筋萎縮性側索硬化症（ALS）か」と考え始めるのではなく、「腕が挙がらない」「下垂指がある」という症候から診断推論を開始します。本特集では、その診断推論の過程を読者と共有することを目的としました。

日常臨床でよく遭遇する「上肢挙上困難」や「下垂指」などをみた場合、どのような鑑別疾患を挙げ、どのような診察を行い、さらに必要な検査をどのように選択すべきかがわかるように解説していただいています。本特集を通して、特に若手の先生には、すでに身につけている知識を、実際の診療で活用できる知識へと発展させていただければと思います。

今回ご執筆いただいた先生方は、いずれも第一線で活躍され、豊富な臨床経験と深い知識をもとに本特集をご寄稿くださいました。いずれの先生も、神経解剖や各疾患の特徴を十分に理解したうえで、診断の出発点は病歴（特に発症様式）と神経診察にあることを強調されています。日常臨床で本特集の症候に遭遇した際には、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

本特集が、脊椎脊髄疾患の診断に苦手意識をもつ若手医師にとって、診断推論を深める契機となり、日常診療の一助となれば幸いです。